

ともに紡ぐ明日、 日本まん中から広がる輝き ともに築く上田

上田市勢要覧





ともに紡ぐ明日、
日本のまん中から広がる輝き
 ともに築く上田
 上田市勢要覧



上田市勢要覧

ともに紡ぐ明日、
 ともに築く上田

目次●CONTENTS

市長あいさつ●上田市長 母袋 創一……………2

上田市の四季彩……………3

吹き渡る、緑の風……………6

語り出す、悠久の時……………8

響き合う、こころ……………10

平成18(2006)年3月6日、新生「上田市」誕生……………12

健康元気都市「新生上田」へ……………14

「日本のまん中 人がまん中 生活快適都市」～水跳ね 緑かがやき 空 ころろ 晴れわたるまち～

1.人が健康で元気なまち創り……………15

2.産業が健康で元気なまち創り……………15

3.地域が健康で元気なまち創り……………16

4.安全で安心そして快適なまち創り……………17

5.にぎわいと交流のまち創り……………17

上田新時代●特別座談会

「I Love UEDA」を合言葉に、
 「輝く上田・美しい上田」への創造と挑戦……………18

座談会参加者●上田市長 母袋創一、ウイジュアルデザイナー・東北芸術工科大学名誉教授 馬場雄二、映画感想家・ビデオカメラマン 大林千栄、映画監督 関本郁夫

上田市のチカラを探る……………22

豊かな土壌が生み出す作物……………24

蚕都からものづくりのまちへ……………26

温かく笑顔を交わす商い……………28

故郷の魅力を多くの人へ……………30

新たな知恵とパワーを担って……………32

上田新時代●特別座談会

知恵と連携をクロス
 させながら紡ぐ、新たな上田市へ……………34

座談会参加者●上田市長 母袋創一、信州大学理事 白井汪芳、長野大学助教授 小長谷悠紀、上田女子短期大学専任講師 金山美和子、長野県工科短期大学校長 大竹勉

真田三代、知謀と武勇……………38

戦国時代を駆け抜けた真田三代をはじめとする一族の物語

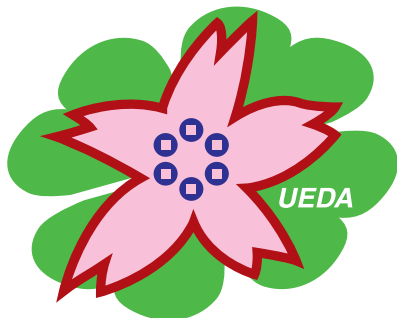
心に刻む、麗しの上田……………42

上田湯めぐり、味めぐり……………44

映画のワンシーンへ……………46

上田鳥瞰図譜……………48

位置と交通



上田市章

背景の四つ葉のクローバーは、旧4市町村の調和した統合を、桜の花は元気で前向きに歩む上田市民の姿を、中央の花心はアレンジされた真田六文銭をイメージし、全体で新生上田市の自然と活気あふれる未来への発展を表現しています。

M a y o r ' s
M e s s a g e

上田新時代の創造に向けて

Toward the creation of a new era for Ueda
为了创建上田新时代
zur Schaffung einer "neuen Ära von Ueda"



上田市
母袋 創一

Soichi Motai



平成18年3月6日に旧上田市、丸子町、真田町、武石村が合併し、人口16万人余、面積552km²の新生「上田市」が誕生しました。

北に菅平高原、南に美ヶ原高原、そして太郎山や独鈷山をはじめとする山々に抱かれ、そこからはいくつもの清流が大地を潤し、日本一の大河千曲川が市内を悠然と流れています。

美しい自然環境のなかで、四季折々の花が咲き誇り、また古い歴史と伝統に培われたさまざまな文化も花開いています。

蚕都として繁栄をみた産業は、今日では県内トップクラスの製造品出荷額を誇る産業都市に成長を遂げました。

新生「上田市」は魅力・活力の面でも、まさに東信の母都市、長野県の中核都市と呼ぶにふさわしい実績と可能性をもった都市となりました。

合併後の揺籃期にあって、初代市長としてそれぞれの地域の特色ある歴史、文化、豊かな自然などの資源を基礎とし、地域間の均衡ある発展に配慮しながら、「新市の一体感の醸成」と「新たな連携・交流」の2つの視点に留意しながら新生上田市の基礎づくりに努めてまいりました。

これからは、上田新時代の創造のなかで、まちづくりの根幹を成す各種の計画、指針、大綱などが次々と策定されます。

私の政治理念である「生活者起点」と「地域経営」の視点に立ちながら、「日本のまん中 人がまん中 生活快適都市」を目指し、16万市民の多彩な市民力と多様な行動力と協働により、市民の皆様が主人公のまちづくりを進めてまいります。

また、合併という大きな転換期を経験した今こそ、先人の築いた歴史・文化・生活などに学び、私たちは後世に何を残していくべきかを、市民の皆様とともに真剣に考えるときでもあると考えております。

皆様の市政への積極的なご提言、お力添えをお願いいたします。

The four seasons in Ueda

To the north are the Sugadaira Heights and to the south are the Utsukushi-ga-hara Heights. Right in the center is the River Chikuma, which flows down from the beautiful mountains after gathering water from many clear streams. The blossoms that appear throughout the year provide delight to the local people and the cool wafting breeze offers the visitor a sense of optimism for tomorrow. The pale red of spring, the deep green of summer, the gold of autumn and the silver of winter. The clearly delineated seasonal changes are the source for the vital energy of the people of Ueda.

上田の四季色彩

北有菅平高原、南有美原高原。在那中央汇集了从美丽的群山流淌而下的数条清溪的千曲川。四季应时的鲜花，洋溢着住在这里的人们的心灵。拂过的清风，将访问的人们引向明天的希望。浅红色的春天，深绿的夏天，黄金色的秋天，银色的冬天。鲜明的四季变化，是上田市民活力的起源。

vier Jahreszeiten in Ueda:

Sugadaira-Hochebene im Norden, Utsukushigahara-Plateau im Süden, dazwischen fließt der Chikumagawa, dessen zahlreichen Quellen aus der bezaubernden Natur vonden Bergen sprudeln. Die Blumen aller Jahreszeiten bringen den Bürgern Freude und Lebenslust. Frische Brise ist die fröhliche Botschaft der Zukunft. Der rosarote Frühling, der tiefgrüne Sommer, der goldgelbe Herbst und der schneeweiße Winter, die unverwechselbaren Jahreszeiten sind die Energiespender für die Bürger in Ueda.

上田市の 四季彩

北に菅平高原、南に美ヶ原高原。そして、その中央には美しい山々から流れ下るいくつもの清流を束ねて流れる千曲川。四季折々の花は、ここに住む人々の心を満たし、吹き渡る涼風は、訪れる人々を明日の希望へと誘います。薄紅色の春、深緑の夏、黄金の秋、白銀の冬。くっきりとした四季の変化は、上田市民の活力の源です。



冬の時間に、つままれて

どこまでも真っ白な雪に覆われた白銀の世界。美しいシュプールを描くその傍らでは木々の花芽が逞しく春を待ち、温泉街でかわす人々とのふれあいに心がじんわり温まります。



秋の彩りに、心染めて

山々からゆっくりと降りてくる錦繡の秋。上田城跡のけやき並木を散策すれば、足元から聴こえてくる木漏れ日と落ち葉の妙なる調べに、ここに住む喜びが静かに満ちてきます。



夏の幻影に、心誘われて

千曲川の水面に若鮎たちが銀輪をきらめかせる夏。涼を求める人たちが高原を訪れる頃、まちには太鼓の音が力強く響いて、大輪の花火が人々の笑顔を夜空に広げます。



春の陽、待ちかねて

日本100名城の上田城で、空をおおように咲くシダレザクラ。真田一族の面影が残る上田に春を運びます。福寿草からスイセン、桜へと上田の春は花便りの春です。



美ヶ原高原美術館の野外彫刻が並び立ち、高山植物が埋め尽くす草原



ラグビーやサッカー、陸上の合宿地として知られる菅平高原のサニアパーク菅平

Everywhere, a wind of green

Two of the most renowned highland resorts in the Shinshu region are Sugadaira to the north and Utsukushi-ga-hara to the south. Both are oases full of beautiful mountain plants and decorated by the brilliant colors of the changing seasons. Refreshing breezes glitter through the green meadows that stretch as far as the eye can see out onto the horizon.

绿色的風
北菅平、南美原、代表信州の2个高原休养地、是由娇小可怜的高山植物和四季的变化而装饰的心的绿洲。一直延伸的绿色草地上有着清爽的风、舒展的视野。

die nach Grün düftende Brise:
die Sugadaira-Hochebene im Norden und das Utsukushigahara-Plateau im Süden sind die beliebtesten Urlaubsziele der Shinshu-Gegend, wo niedliche Alpenpflanzen sowie Naturereignisse verschiedener Jahreszeiten hautnah zu erleben sind, eine Oase für die Seele. Auf der grünen Wiese weht eine frische Brise, und davor breitet sich ein atemberaubender Weitblick, so weit wie das Auge reicht.

吹き渡る、 緑の風

空の大きさが間近に感じられます。北に菅平、南に美ヶ原と、信州を代表する2つの高原リゾートは、どちらも可憐な高山植物や四季の変化に彩られた心のオアシス。どこまでも続く緑の草原には、さわやかな風がきらめき、さえぎるもののない伸びやかな視界が開けています。

真

夏の平均気温は一九・六度。その快適な気候を求めて、全国からラグビーやサッカーなどの強豪チームが合宿に訪れる菅平高原。背後にそびえるのは日本百名山の一つ四阿山と花の百名山に数えられる根子岳です。四阿山の山頂にはアルプスの山々を一望する三六〇度の大パノラマが広がり、根子岳を訪れる夏の登山者たちはレンゲツツジの群生に迎えられます。二つの山の裾野にゆるやかに広がる壮大なスケールの草原は、季節ごとに美しく彩られ、数多くの高山植物や野鳥、昆虫を育みながら、清々しい風を見渡す限りの緑一色の世界へと運んでいきます。



塩田城跡には約3万株のガクアジサイが咲きます

美

ケ原高原は、主峰王ヶ頭を中心にした標高二〇〇〇メートルの溶石台地です。遠くは富士山、北アルプス、八ヶ岳などの雄大なパノラマを、雲上はるかに四季を通して楽



信濃国分寺では7月上旬に蓮の花の見ごろを迎えます

しめます。どこまでも続く大草原の広さは約二〇〇〇ヘクタール。二〇〇種類を超える高山植物を数え、春はシヨウジヨウバカマ、夏は真紅のレンゲツツジ、ニッコウキスゲ、ヤナギランなどが草原を埋め尽くし、秋はリンドウ、マツムシソウが咲き競います。そして、高原の中央には霧の時に鐘を鳴らして登山者の安全を守るシンボルタワー「美しいの塔」が、東の端には広大な敷地にさまざまな野外彫刻を展示している美ヶ原高原美術館があります。

日本最長の河川・千曲川は、鮎釣りの名所で知られています



信州国際音楽村のラベンダーの香りが、夏の到来を知らせます



美しいの塔

美ヶ原に建つこの塔は、昭和29年秋、観光地として人気を集め登山者が急増してきた頃、安全を祈念して建立されました。塔には山の詩人・尾崎喜八氏の詩と美ヶ原の開発者・山本俊一翁の徳を讃えた胸像が掲げられ、美ヶ原を象徴する塔となっています。



ダボスの塔

昭和51年、スイスのダボス町と旧真田町の間で姉妹都市提携が結ばれ、その時お互いに1㎡の土地を交換しました。そして、菅平高原にあるダボス町の土地に建てられたのがこの塔です。平成18年8月18日には、この提携を新市で継続する調印式が行われました。





江戸時代中期の宝永年間に建てられたという、鹿教湯の文殊堂（県宝）



別所温泉にある安楽寺八角三重塔は、日本で現存する唯一の木造八角塔（国宝）

The narrative of eternity

The remains of the ancient Kokubunji temple and other vestiges of medieval culture appear in all their beauty along with other celebrated historic sites such as Shiodaira, once known as the Kamakura of the Shinshu region, and the remains of Ueda Castle, from where the Sanada clan lorded it over the region in the age of civil war during the 16th century. The romance of history is conveyed by the many cultural artifacts of National Treasure and Important Cultural Property status scattered throughout the region.

悠久的历史

古代的国分寺遗址,和中世纪文化代表被称为「信州鎌倉」の盐田平,因战国武将真田氏而名传天下的上田城址等,散布在各地的大量国宝・重要级的文物诉说着历史的兴亡。

lebendige Zeitgeschichte:

Kokubunji-ato aus der uralten Zeit, Shioda-Taira, so genannte "Kamakura in Shinshu" aus dem kulturell aufgeblühten Mittelalter, die Ueda-Burgruine, bekannt durch die Sanada-Feldherren um 15.-16. Jahrhundert sowie andere zahlreiche staatlich anerkannte Kulturerben sind die Zeugen der spannenden Geschichten der Vergangenheit.

語り出す、悠久の時

千年以上も前から信濃の国の中心として栄えた上田市。古代の国分寺跡や中世文化が花開き、「信州の鎌倉」と呼ばれる塩田平、戦国武将の真田氏とその名を天下に轟かせた上田城跡など、各地に点在する数多くの国宝・重文級の文化財が歴史ロマンを物語っています。



狩野派・秀山信尹の筆による鳴き龍（妙見寺）



家庭円満、結びの神として信仰が厚い野倉夫婦道祖神

上

田市の歴史は古く、古代には国造がこの地に派遣され、科野国（信濃国）

の古名)の政治・文化の中心地になっていたといわれています。奈良時代には、信濃国分寺が建立され、信濃国最初の国府もこの地に置かれたと考えられています。

そして、塩田平では平安時代から続く中央との強いつながりがあり、鎌倉時代に入ってから時の政権に受け継がれ、幕府の重臣・北条義政を祖とする塩田北条氏は、この地に居を構えて三代約六十年間にわたり寺社を厚く保護しました。「信州の学海」とされた当時の仏教文化の興隆は、日本で唯一の

戦

国時代には旧真田町をルーツとする真田昌幸が、千曲川河畔の要害

の地を選んで上田城を築きました。徳川の大军を二度にわたって撃退したこの名城は、現在は「上田城千本桜」の城跡公園として市民に親しまれ、櫓、石垣などに往時を偲ばせています。

また、江戸時代には湯治場として栄えていた鹿教湯温泉は、鹿が教えてくれたことからその名がついたと伝えられ、

八角塔である安楽寺八角三重塔（国宝）をはじめ、中禅寺葉師堂（国重文）、前山寺三重塔（国重文）など、鎌倉・室町時代を中心とする名刹古刹が密集していることからもうかがえます。

(写真・右) 国重要文化財の信濃国分寺三重塔 (写真・左) 「未完成の塔」ともいわれる前山寺三重塔 (国重要文化財)



別所温泉・常楽寺の境内の最も神聖な場所にある石造多宝塔 (国重要文化財)



その鹿は文殊菩薩の化身で、菩薩が祀られているという文殊堂（県宝）が開湯の由来を今に伝えています。

法住寺虚空蔵堂 (国重要文化財)

法住寺は平安時代初期の開創と伝えられる天台宗の古刹。伸びやかに流れる屋根の曲線が美しい虚空蔵堂は、細部に禅宗様を取り入れた入母屋造で、堂内の厨子（国重要文化財）とともに室町時代中期の作と推定されています。



真田氏館跡 (県史跡)

上田城築城以前の真田氏の館跡で、地元ではお屋敷と呼ばれ、つつじの名所として親しまれています。周囲には東辺80m・西辺130m・北辺150m・南辺160mの土塁や柵形、厩跡の遺構が残り、中世豪族の館跡として貴重なものです。





上田城跡公園や上田駅お城口、中央商店街を会場に戦国絵巻を再現する上田真田まつり



道祖神へねじを供え子どもの無病息災を祈る戸沢のねじ行事(国選択無形民俗文化財)



岳の幟(国選択無形民俗文化財)は、別所温泉に約500年前から伝わる雨乞いの行事

Hearts beating in mutual harmony

Traditional ceremonies offer the viewer their own unique brand of excitement while at the same time cementing the relationships between the people who live in the community. There are many traditional ceremonies and festivals held in Ueda that have continued to be loved and admired by people from inside and outside the region over the years, and they continue to be greatly valued as something in which local people can take great pride.

互相影响の心
给观者带来感动,加深住民之间联系的传统仪式。上田市有超越时代,跨越地域,被人们所喜爱的众多的传统仪式和祭祀,被人们守护并延续着。

zusammenklingende Herzen:

traditionelle Feierlichkeiten verstärken nicht nur die Beziehung der Bewohner, sie fasziniert die Zuschauer vor Ort und auch von außerhalb der Stadt. In Ueda werden heute noch solche über Generationen beibehaltene Feste gefeiert, worauf die Bürger sehr stolz sind.

響き合う、 こころ

観る者に感動を与え、そこに住む人々の絆を深め合う伝統の行事。

上田市には、時代を超えて地域内外の人々に愛され続けている多くの伝統行事や祭りがあり、人々の誇りの一つとして大切に守り伝えられています。

一心様の祭典神事

武石地域で行われているこの祭典は、小寺尾の一心神社で毎年4月に行われる伝承行事で、市指定無形文化財の一つです。一心行者による火渡りや剣はしごを登る刃渡り、藪玉投げなどが行われ、多くの見物客でにぎわいを見せる行事です。



一柳三体竜神おねり

丸子にあった大きな柳の木に棲みつく龍が毒を吐き、村人が病に倒れていったところ、旅のお坊さんがその柳の木から3体の観音さまを作り、龍が姿を現さなくなったとの言い伝えがあります。それが、祭りの時に「竜神おねり」として演じられ、多くの人に愛されています。



暮らしを彩っています。春には真田一族の意気を伝える「上田真田まつり」が開かれ、時代衣装をまとった多くの市民が参加して一大歴史絵巻を描きます。
そして、市民の熱気が最高潮に達するのは夏。市民総参加の「上田わっしょい」では、各地域から一万人を超える人たちがみこし連、踊り連、太鼓連などに練り出してエネルギー溢る踊りや生演奏を披露し、人々を興奮の渦に引き込みます。

市内の自治会などから約110の踊り連が参加する「上田わっしょい」



でも、別所温泉の「岳の幟」と真田町長の「戸沢のねじ行事」は、国選択無形民俗文化財として全国的にも貴重なものです。「岳の幟」は降水量の少ない塩田平に五百年前から伝わる雨乞いの行事で、長野オリンピックの閉会式でも披露され、世界の人々にその美しさを印象づけました。

一方、真田地域の冬の風物詩となつている「戸沢のねじ」は子どもたちの無病息災を祈る行事で、毎年二月七日、小さな子どもがいる家では親戚や近所の人が集まり、野菜や干支などをかたどった「ね

人と川と地域を愛して、依田川を走る「信州爆水RUN」



上

田市には地域に根づいた伝統行事が数多く残されています。なか



真田幸隆の居館起工に舞ったのが始まりという三ツ頭獅子

じ」と呼ばれる供物を米の粉で作り、翌日八日の朝、子どもたちがこれを手作りのわら馬にのせて引き道祖神にお参りします。

こ

うした伝統行事に加えて、上田市では年間を通して多くの祭礼やイベントが催され、人々の



みこしや武石音頭の踊りでにぎわう武石夏祭り



平成17年3月24日

長野県知事へ合併申請を提出

4市町村議会による合併関連4議案可決を受けて、4市町村長が長野県庁を訪れ田中長野県知事に合併申請を行いました。



平成15年8月～10月

合併住民懇談会を開催

上田市・丸子町・真田町・武石村の4市町村119会場で住民懇談会が開催され、住民3,211人が参加しました。



平成17年11月26日

合併100日前イベント開催

「みんなでつなごう4市町村トーチリレー」を開催。住民走者173人が運ぶトーチにより4市町村が結ばれました。



平成16年2月～3月

リレーシンポジウムの開催

「市町村合併と自立を考えるリレーシンポジウム」が武石村・丸子町・真田町の3会場で開催されました。



平成18年1月14日

合併50日前イベント開催

「手をつなごう4市町村子ども音楽会」を開催。13小学校14チームが見事な合唱や楽器演奏を披露しました。



平成16年6月17日

合併協議会を設置

法定の「上田市・丸子町・真田町・武石村合併協議会」が発足。合併に向けて具体的な協議がスタートしました。



平成18年3月6日

新「上田市」誕生

午前8時20分、上田市役所正面玄関前で開市式が行われ、新生「上田市」がスタートしました。



平成17年2月6日・13日

住民投票

丸子町と真田町では2月6日に、武石村では2月13日に住民投票が行われ、4市町村合併の枠組みが固まりました。

Birth of the new Ueda City on March 6, 2006
The four municipalities of Ueda, Maruko, Sanada and Takeshi have maintained long historical relationships with one another, and they have now merged to create a reborn Ueda City with a population of 164,000. In the future we can expect to see a new community coming into existence that brings out the distinctive character of each district. The new city of Ueda is now set to develop along its own unique lines, gathering together the wisdom and talents of its more than 160,000 citizens.

平成18(2006)年3月6日、新生「上田市」誕生。一直以来歴史淵源很深の上田・丸子・真田・武石、この4市町村の合併誕生した人口16万4000人の新生上田市。期待する地域個性の城市建设の推進と、集結した16万新市民の睿智の独自発展。

die Stadt Ueda, neu geboren am 6. März 2006:
aus vier Gemeinden (Ueda, Maruko, Sanada und Takeshi), eng verbunden mit der Geschichte der Vergangenheit, ist die Stadt Ueda neu geboren, mit 164.000 Einwohnern. Ein dynamisches und lebhaftes Stadtbild ist hier zu erwarten, durch Beibehalten der Charaktere einzelner Regionen und die wertvollen Meinungen der Neubürger.



全国からご応募いただいた1443点について、新生「上田市」市章選定委員会で慎重に選定を行い新しい市章を決定しました

平成18(2006)年3月6日、新生「上田市」誕生

人口減少、少子高齢化社会の到来、財政難といった社会変化や地方自治の課題を背景に、多くの市町村が岐路に立たされるなか、歴史的にもつながりの深い上田、丸子、真田、武石の4市町村が選んだ道は、住民らの夢や希望を未来へとつなぐ新設対等合併方式による新市の建設でした。

上

田市・丸子町・真田町・武石村の4市町村の合併協議は、平成十四年九月二十四日の任意合併協議会設立準備会の設置に始まり、同年十二月二十四日の任意合併協議会設置以後、住民懇談会、市町村合併シンポジウムなどの開催や、住民意向調査による住民の皆さんへの問いかけを経て、平成十六年六月十七日には法定の合併協議会を設置しました。

法定合併協議会では、分権型合併を具現化する地域自治センター構想など計二〇回の協議会を開催し、この間、丸子町と武石村は二つの合併協議会に加入、真田町では合併の賛否について町を二分する議論がされましたが、平成十七年二月六日に丸子町と真田町で、同年二月十三日には武石村で住民投票が行われ、その結果により、最終的に四市町村合併の枠組みが固まりました。

四

市町村は、平成十八年三月五日にそれぞれ長い歴史に幕を閉じ、翌三月六日に人口一六万四〇〇〇人の新生「上田市」が誕生しました。上田市は長野県東部の中核都市として、自然・文化・産業・人材など豊かな資源と各地

の合併関連四議案の可決を経て、同年三月二十四日には長野県知事への合併申請をし、その後、県議会の議決、県知事

決定、総務大臣への届出を経て、同年八月十二日の総務大臣告示によって正式に合併が決定しました。

域の特色を生かし、地域自治センターと地域協議会を核とした地域の個性を生かす分権型のまちづくりの推進、合併のスケールメリットによる広域的なまちづくり、また、「新たな行政経営の仕組みづくり」など、一六万市民の英知の結集により持続的な発展を目指していきます。

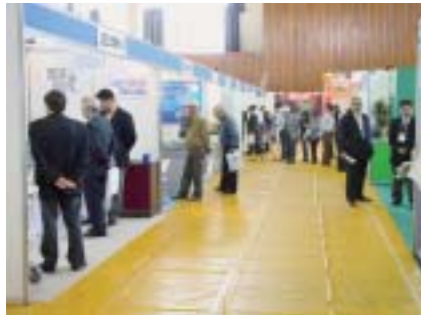


合併協定調印式



新生「上田市」発足記念式典

(写真・上) 正式に、合併へ向けて大きな一歩を記した合併協定調印式(平成17年2月18日)(写真・下) 平成18年8月19日、新市発足の記念式典が行われ、全員で「ふるさと」を合唱



地域の産業を広く内外にPRする「上田地域総合産業展」

地 域の豊富な資源を有効に活用し、さらなる産業振興により新市を発展させていくため、産学官に地域住民を交えた連携体制を整えていきます。

また、地産地消をはじめとする地域内循環型の経済構築や、さまざまな競争にも対抗できる新しい技術を用いた「ものづくり」に取り組む産業への転換を図りながら、

未来に向けて発展し続けるまちづくりを行います。

主な重点施策として、商店街活性化事業の推進、活力ある地場産業・中小企業への支援、新たな産業の創出と育成、産学官連携による研究・技術開発の促進、地域ぐるみで取り組む農業の活性化、地産地消の推進、企業誘致体制の整備などを行います。



農産物や特産品を販売する大収穫祭

Creating a community with healthy and vital industries
We aim to create a community that continues to develop while moving over to industries that will assist in the new process of community-building through tie-ups between the industrial, academic and public sectors.

创建产业健康而有活力的城市
根据产学官联合，一边致力转换为新的“制造业”，一边持续发展的城市建设。

die Stadt der gesunden und aktiven Wirtschaft:
Realisierung einer Stadt, wo Industrien/Behörden/Institute eng zusammenarbeiten, um die herkömmliche Wirtschaft durch "produktives kreieren" neuzeitig zu reformieren, zur Weiterentwicklung der Stadt.



男性が献立を立て実習するシニア・男の料理教室

ま ちづくりの基礎は“人”にあります。家庭、地域、学校の連携を深め、子どもたちの生きる力を育んでいきます。また、大学などとも連携しながらさまざまな学習ニーズに応え、個人の能力を地域のために生かせる、人間性豊かな人材の育成を目指したまちづくりを行います。

主な重点施策として、周産期医療・出産体制の確保など地域医療

体制の構築、子育て・子育て支援の充実、幼保小中の連携による心の教育プランの推進、学校教育における情報化推進、健康づくり支援体制の充実・拠点施設整備、ともに支えあう地域福祉の推進、男女がともにいきいきと暮らす地域づくりの推進、生涯学習推進基本構想の策定、多文化共生社会づくりの推進などに取り組めます。



子育て・子育て支援の拠点・親子プラザ

Creating a community in which people can enjoy health and vitality
Our aim is to create a society in which everyone can live healthy and vital lives and experience for themselves the true joy of being alive.

创建人健康而有活力的城市
以创建人人平等、感到有生存的意义、可以活泼健康地生活的社会为目标。

die Stadt der gesunden und aktiven Bürger:
Realisierung einer Stadt, wo alle Bürger gesund, munter und aktiv leben können.

Chapter 1 健康元気都市「新生上田」へ

人が健康で元気なまち創り

市民誰もが等しく健康で、生きがいをもちながら、いきいきと健やかに暮らすことができる社会の形成を目指します。

Creating a newly regenerated Ueda as a city of health and vitality
While pursuing the advantages of being located over an extensive geographical area, we aim to create a new era for Ueda in which the character of the area is stressed and we gather together the full and varied potential of the community on the basis of the spirit of cooperation, mutual understanding, mutual respect and mutual assistance.

健康而有活力的城市“新生上田”
一边追求着广域性的城市建设这个大規模の优点，一边很好地运用地域特点，在协作的精神之下，互相理解，互相认可，互相扶持，整合多彩的市民力，强有力地前进的“上田新时代”的城市建设开始了。

die neue Stadt Ueda, gesund und kraftvoll:
Die Neugestaltung der Stadt hat bereits begonnen, sich immer "vorwärts" richtend. Im Ganzen gilt "eine Stadt in großer Dimension" als Ziel gesetzt, wobei der individuelle Charakter einzelner Regionen weiter erhalten bleibt, und die vielseitige Kraft der verständnisvollen und kooperativen Neubürger wirkungsvoll eingesetzt wird, um eine "neue Ära von Ueda" zu schaffen.



大勢の芸能人が訪れ、豆まきで邪気を払い福を招く北観音節分会

健康元気都市「新生上田」へ

「日本のまん中 人がまん中 生活快適都市」～水跳ね 緑かがやき 空 ころろ 晴れわたるまち～



七年に一度、寅年と申年に行われる子檀神社御柱大祭



日本百名山の四阿山(右)は、花の百名山・根子岳(左)と並び菅平高原のシンボル



信州国際音楽村開村一九周年記念「信州ルネッサンスふれあい2006」



上田城千本桜まつり観光バス1,000台達成

産 業面での地域間競争が激化するなか、「観光」をリーディング産業（起爆剤）に位置づけ、おもてなしの心の醸成を図り、新たな枠組みと交流による相乗効果をあげること、地域の産業の活性化を図り、上田市のファンづくりを進めます。また、都市間交流を進め、新たなきわいの創出に努めます。

主な重点施策として、リーディング産業を



姉妹都市・友好都市提携及び災害時応援協定調印式

Creating a lively community rooted in personal communication
We hope to revitalize local industries with tourism as the main stimulus and to usher in a new sense of vitality by generating more and more admirers of Ueda City as well as by maintaining close relationships with other cities.

创建繁荣和交流的城市
以“旅游业”为起始，推进地域产业的活性化，发展上田市爱好者组织和城市间交流，开创新的盛况。

die Stadt mit Leben und Kommunikation:
Realisierung einer lebhaften Stadt durch Tourismus, zur Stimulation der Regionalwirtschaft. Während die Stadt sich attraktiv auf Besucher einstellt, werden auch die Kommunikationen mit anderen Städten gefördert, zu mehr Lebendigkeit der Stadt.



16万市民の暮らしを守る消防団の出初式

よ り豊かさを実感できる、清潔で安全な暮らしを実現できるまちづくりを進めます。豊かな恵みをもたらした自然や環境に感謝する心を持ち、地域全体で大切に守りながら、次の世代へ引き継いでいきます。

また、下水道の普及やごみの減量化、都市景観の形成といった住環境の整備を促進するとともに、住民の



いつまでも、しあわせの虹がかかるように

Creating a pleasant community that is safe and secure
Our aim is to create a community in which people can lead clean and safe lives under conditions that can be handed on to subsequent generations while protecting nature and the environment throughout the region.

创建安全而舒适的城市
推进可以实现清洁而安全生活的城市建设，以地域全体守护自然和环境，并承继到下一代。

die sichere und komfortable Stadt:
Realisierung einer sauberen und sicheren Stadt, wo Natur und Umwelt aktiv geschützt wird, zur Übergabe an die nächsten Generationen.

Chapter 4 健康元氣都市「新生上田」へ

安全で安心そして快適なまち創り

清潔で安全な暮らしを実現できるまちづくりを進め、自然や環境を地域全体で大切に守りながら、次の世代へ引き継いでいきます。



7区間25.1kmの距離で健脚を競う、ともしびの里駅伝大会



ブラジル庶民の祭りが再現される、ブラジル田舎祭り



友好都市のブルームフィールド市都訪問団が来訪



高原に緑の到来を告げる催し菅高原カントリーフェスティバル



地域のことを地域で考え行動する地域協議会

Chapter 3 健康元氣都市「新生上田」へ

地域が健康で元氣なまち創り

コミュニティ活動を充実させて地域住民の主体的な活動をより大きな力に変え、地域に誇りをもてる、個性豊かで魅力的なまちづくりを進めます。

小 さな単位を基本としたコミュニティ活動を充実させ、幅広い視野とさまざまな能力をもった地域住民の主体的な活動をより大きな力へ変えていくため、合併に伴う新しい地域経営方式を構築するとともに、住民同士や住民・行政間の垣根をつくらず、互いに交流できる体制をつくりまします。

また、地域の価値を再確認し、地



市内の各地域を巡る、うえた新発見「ぐるっと探険」

Creating a town with health and vital local communities
We are working toward creating a town with its own distinctive character and attraction and in which people can take real pride. We are doing this by enriching the quality of community activities and transforming the autonomous activities of local people into new sources of energy.

创建地域充实而有活力的城市
充实地方自治团体活动，将以地域居民为主体的活动转化为更大的推动力，推进可以夸耀的、个性丰富而富有魅力的城市建设。

die Stadt der gesunden und aktiven Regionen:
Realisierung einer individuellen und attraktiven Stadt, durch Unterstützung jeglicher Bürgerinitiative in einzelner Region, zur Förderung von Engagement, Selbstbewußtsein sowie Stolz der Bürger.

貴重な資源や財産、文化を生かし、交流拠点づくりとまちの活性化につなげたい。



上田市長
母袋 創一
Soichi Motai



ヴィジュアルデザイナー
東北芸術工科大学名誉教授

馬場 雄二

Yuji Baba

上田市出身。フジサンケイグループに代表されるデザイン計画、目の錯覚によるアイ・マジック、漢字の視覚化をライフワークとしている。上田観光大使。



映画思想家
ビデオカメラマン
大林 千菜莢

Chigumi Obayashi

東京都出身。3歳より映画に親しみ、14歳から映画思想家として活動。食にも造詣が深く、【西洋食作法と美食の教室】を主宰。父は映画監督で上田観光大使の大林宣彦氏。

上田ならではの映画祭で、才能が相乗効果になる。上田の資質が寄り添い、育む場をつくりたい。



映画監督

関本 郁夫

Ikuo Sekimoto

京都府出身。映画「極道の妻たち」シリーズの監督のほか、脚本執筆も多数。上田市では、母袋市長もエキストラ出演した映画「およう」、TVドラマ「さすらいの警長・風間昭平」などを撮影。

◆ 18

a round-table conference

「I Love UEDA」を合言葉に、「輝く上田・美しい上田」への創造と挑戦

上田新時代●特別座談会

4市町村の合併から1年の時を経て、上田市は新たな方向性を探り始めた。デザインや映画などヴィジュアル分野で多彩に活躍する3氏を迎えての座談会。自然を愛し、上田らしさを生かしたまちづくりのアイデアからは、美しく輝ける未来の上田が見えた。

常に輝いている上田をまず自分が誇りに思い、その誇りをもって語りたい。



平成19年1月27日、都内で行われた座談会

市長◆四市町村の合併で新上田市が誕生したことで、いろいろな資源が生まれています。これを機に、その資源を新しい交流拠点づくりとまちの活性化のためにどのように生かしていくかを考えていきたいと思っています。今回は「I LOVE UEDA」をテーマに、これまでの上田市とのかかわりから皆さんが感じてこられた課題や、外からの視点での発展系のア

アイデアをご提案いただければと思います。

ほかにはない自然と文化のまち。だからこそ、上田から文化圏を広げていきたい。

馬場◆私は上田の出身ですが、高校卒業後は三年に一回ほどしか上田に帰省せず、その後の上田のことをあまり知りませんでした。長野オリンピックのデザイン検討委員会委員長として関係してからは故郷を再認識し、その良さを世界に知ってほしいと思うようになりました。大林◆上田市との出会いは、淀

川長治先生の幼少期を描いた映画の撮影にあたり、上田にはまさしく先生の青春時代の雰



上田城周りで撮影された竹久夢二生誕120年記念作品「およう」

たか、映画「極道の妻たち」の撮影後、知人に誘われて上田を訪れました。ちょうど映画「およう」の撮影前で、その舞台は大正時代です

から果たしてどこで撮ればいいのかと考えあぐねていたところ、偶然、上田でこれかと思う場所に出会ったわけです。その年の五月にはクランクインして、上田城を拠点に周辺をロケーションしました。その後、TVドラマのロケで訪れた際に上田に古民家を購入して、現在修理中なんです。二年のうち半分ぐらいは住もうと思っています。

故郷を誇りに思う心が、上田を素敵に変える。

市長◆上田には先人が築いてきた資源や財産、文化をいかに守り維持していくかということと、新しい価値を生み出すというテーマが必要で、その両方のバランスが重要だと思っています



市章選定委員会による選考風景

す。さまざまな資源や状況をより良く展開していくことが将来的に必要なと考えております。皆さんの上田市に対する思いなどを聞かせていただけますか。馬場◆実は、上田市の新たな市章制定の際に相談を受けたのですが、新市章は市民の大きな関心のなかから生まれた、選考方法も市民が全国に誇れる市章と言えらると思います。というのも「上田出身の人はプラス上田にかかわりがある人、上田が好きだな人、関心がある人」という応募資格を設けたことで、上田への関心度が高い中味の濃い応募が多かったのです。市章についてのセミナーや応募作品の展示会を開催し、投票には市民が上田市に望む希望や願いがしっかりとこめられていました。この過程で、私は市民が上田市に対し、前向きな

夢をもっていると強く感じましたね。

大林◆上田市には住民がきちんとまちを守り、育てようとする気骨を感じます。最近報道番組を見てみると、キャスターがまちを歩く人に「名産品は何ですか？」と聞いても、意外と即答できない人が多いですね。その点、上田の方はオススメ処を何うと皆さんすぐに即答してくださいます。自分が住んでいるまちの良さをすぐに言えることは、まちづくりにとって重要なポイントを含んでいると思います。

馬場◆上田に住んでいる人が上田を誇りに思うこと、そしてほかの人に上田を、誇りをもって話ができること。この二つは、常に輝いているまちであるための基本的な必要条件ではないかと思えます。

大林◆今回合併したことで、これまで個々に各地域に受け継がれていたそれぞれの知恵と工夫が、どのようにしてお互いを

困気が「生きた風景」としてありました。それがご縁となり、うえた城下町映画祭での自主映画部門に審査員として毎年参加しております。また父の映画「理由」や、平成十九年夏公開版の「転校生」の撮影でもお世話になっております。関本◆私はたしか六年前でし

上田でしか見られない風景があることは大きな魅力。そのことを市民が誇りに思い、語ることでまちはもっと輝いていく。

律し、誇りを保ちつつ発展して行くのか、今後の市としての動向にとっても興味があります。



うえだ城下町映画祭自主制作映画コンテストの審査員を務める大林さん

方がそれぞれの地域の活性化を考へ意思決定し、行動できる手段として地域内分権という新しい制度を採り入れました。これは地域住民の意思を反映し、誇りにも結びつくものと思います。

上田でしか撮れない風景に魅せられて。

大林◆自主映画祭には第一回



日本一長い千曲川の可能性は、これからの課題の一つ

未来の上田に対して前向きにプラス思考でことを進めていけば、五十年、百年と経過した時に、そのことに次の世代の人々が感謝してくれるはず。謝してあげるはず。関本◆こんな殺伐とした世の中になったのは、やはり美しいものを見たいないことも理由の一つになるのではないでしょう。か。美しい映画を見たり、小説を読んだり、文化を感じることは大切だと思います。大林◆私の住んでいる東京では、水も空気もお金を出さなければ

目から審査員として参加しておりますが、始まりはよくある映画祭に終わってしまったんです。そこで私は、上田市で開催する意味を考えました。日本津々浦々を見渡しても、「ココにしかない風景」が上田市にはある。そこで映画祭の主催者に「二回目からは十五分以上無制限の作品を募集しましょう」と提案しました。これは、映画と真剣に向き合う覚悟のある人の作品を募集しようということ。覚悟のある作家が育つことが、映画人を多く引き入れてくれる上田市への恩返しになるのではと考えたからです。一方、上田

市民の地元に着した作品は十五分以内で募集しよう」と別部門で枠をつくりました。地元の方と他所から応募される方が映像でつながって行くことが、上田の映画祭にとつていちばん幸せな形だと思っております。関本◆上田市は、ほかの都市にない古き良きものがあり、時代劇から明治、大正、昭和初期、そして現代版の映画も撮れる

ば質の良いものは手に入りません。二十年前に誰がこの事態を想像したでしょう。か。けれど上田市には水や空気を含め「あたりまえ」の資源が自然のなかにあります。上田市にある自然の素養を慈しんでほしいと願います。市長◆デザインあるいはり、デザインする感性が我々に求められています。現在の市の上田市では、上田城、千曲川、温泉、神社仏閣、公園などが主な魅力を増やす資源だと考えています。

「上田ならではの」が、まちづくりのヒント。

馬場◆そして、そこにはぜひ「上田ならではの」をプラスしてほしいですね。同じ自然のものでも千曲川の小石、美ヶ原の空気や花、菅平の枝や土だって、みんな「ならではの」本物の魅力を備えた記念品です。何か面白く楽しいことが考えられそうです。

自然は自然の良さを守りながら、将来を見据えて計画的にデザインすることで、さらに美しいまちがつけられる。

映画思想家
ビデオカメラマン
大林 千栄英
上田の良さは
住人の努力の賜物。
伝える覚悟と
知る覚悟が交差する
新たな交流の場に期待。



場所。だから映画のセットがあれば、もつと人が集まるのではないかとも思っています。そうすれば、新上田市から作家、映画監督、シナリオライター、映画人を輩出することになるかもしれない。上田は教育に熱心と聞いていますから、ここから文化圏が広がっていく可能性もあるでしょう。そのためのお手伝いをしてみたいという気持ちもあります。

輝き続けるために、まちをリ・デザイン。

市長◆上田市の産業は商業、工業、農業、観光の四つですが、今後はそれらに加え、創造的な分野として文化の拠点づくりを考えています。最後のテーマとして、上田市のロケーションや産業、文化的な現状をふまえて、将来、こんなまちになってほしいというエールも含めて語っていただけますか。

上田市長
母袋 創一
「私」から「私たち」の愛するまちへ。誇り高き上田を目指したい。



映画監督
関本 郁夫
まちの美しさを
知ること
美しくする
努力を忘れずに
いたい。



大林◆実はインターネット上で上田市のことをさまざま角度から検索してみました。その中で二五〇〇人ほどの会員がいる「長野県上田市愛好会」を見付けました。上田市を愛する人が書き込みをしているわけですが、「赤ちゃんの粉ミルクはどこで？」的な生活に密着したものから上田に対する理想の声もありました。予想以上に年齢層の幅が広がったので、年配の方々の知恵を、インターネットを使って若い人たちに継承することも、まちを活性化するヒントになるかも知れません。

市長◆求めるニーズはさまざまありますが、地域の話題が一元化してわかるブラウザ的な機能も

関本◆私は上田に命の芽吹きを感じるのです。冬の寒さに耐え、五月に芽吹く新緑の美しさ。千曲川の流れに樹木と四方の山のグリーンが映え、本当に美しい。僕が上田に家を購入したのは、そんな精神安定剤ともいえる緑があるからです。でも美しすぎて、無頓着なところがあるような気がします。美しいものは手を加えながら、さらに美しいものにしていかないとけない。たとえば千曲川なども植樹をしたりして、初めて訪れた人があっと驚くまちにしてほしいですね。

市長◆長野大学にも環境ツーリズム学部が誕生し、四万十川で活躍された先生がご自身の経験を生かして千曲川に生かせないだろうかということも話題になっています。また、市内には川や魚とのふれあいの場や防災拠点など文化的なものも含め、全国初の道の駅と川の駅のジョイント空間を創造していきたいと考えています。

馬場◆デザインというのは、人間が計画して美しく心地よいものをつくっていくこと。これまでの残すべきものを守りながら、必要だと思えます。大林◆いま定年退職を迎えようとしている方々が、住む場所を求めて上田を訪れています。他所から移り住む方が増えることで、地域内でのグローバル化が始まっています。上田には「安全な食」がたくさんあります。安心して食べられる場所があることをあたりまえだと思わず、もつと堂々とその「貴重なあたりまえ」を広めることにより、新たなコミュニティが生まれると思います。

馬場◆懐かしさに住み心地のよさが加われば、団塊の世代の方々も故郷へ戻りたくなくなるのではないのでしょうか。市長◆今日はいろいろなご意見をいただき、改めて感謝申し上げます。皆さんが上田を愛し、良い面を認識してください。これこそを強く感じました。これがひとりでも多くの方に広がり、「WE LOVE UEDA」と言っていたできるように、我々も努力していきたいと思えます。

Agricultural produce that makes the most of the natural conditions of the locality, high-tech products shipped to markets all over the world that are the basis for prosperity today just as silk was the basis for prosperity yesteryear, and the smiling faces of local people and tourists seen in an environment in which historic old buildings stand amidst modern commercial facilities. All this is created by people and by the power generated by love of the place where we were born and raised. The sparkling eyes of the people are opening up a bright future for the city of Ueda.

自然条件の优越, 丰富多彩的农产物, 继承了“蚕都城”的繁荣, 持续向世界市场输送高新技术产品, 历史建筑和现代商业设施共存的城市, 处处可见的市民和游客的笑容。创造这一切的是人, 爱故乡的力量。人们闪耀的瞳孔, 将强有力地推动上田市的明天。

Vielfalt an Agrarprodukten durch naturgerechten Anbau, die High-tech Produkte für den Weltmarkt wie einst die Seide von hier florierend exportiert wurde, die fröhlichen Gesichter der Bürger sowie Touristen im Stadtviertel, wo traditionelle Wohnhäuser und moderne Geschäftsgebäude harmonisch nebeneinander stehen; überall sind nette Leute, die ihre Heimat lieb haben und die Zukunft der Stadt sicherstellen.

1 豊かな土壌が生み出す作物

2 蚕都からものづくりのまちへ

3 温かく笑顔を交わす商い

4 故郷の魅力を多くの人へ

5 新たな知恵とパワーを担って

特色ある自然条件を生かした多彩な農産物、
「蚕都」の繁栄を現代に受け継ぎ
世界市場へと送り出されるハイテク製品、
そして歴史あるたたずまいと近代的な商業施設が同居する
まちのそこかしこで交わされる市民や観光客の笑顔。
その全てを生み出すのは人、故郷を愛する力。
進取の気象に富んだ企業と若者たちの輝く瞳が、
上田市の明日を力強く切り拓きます。

特集

上田市のチカラを探る



県内有数の産地となっているリンゴの栽培



高級ワイン用ぶどう栽培の最適地として植栽が始まったぶどう畑「マリコウインヤード」



菅平高原はレタスの産地、自然条件を生かした個性ある農業生産が行われています

上田市は全国でも有数の寡雨地帯で、周囲の山々は春の山菜、秋はマツタケをはじめとするキノコ類の宝庫として知られています。また、北部には夏の平均気温が摂氏一九・六

度というさわやかな菅平高原が広がっています。このような独特の気候と肥沃な土壌に恵まれ、水稲、リンゴやぶどうなどの果物、花卉、レタスなどの高原野菜を主力に、自然条件

所では、地元で生産された新鮮で安全・安心な農作物が、作り手の顔が見える形で提供されています。また、このような人や環境にやさしい農業に取り組もうと新規に就農を希望す

る人も多く、農業を地域全体で守り育てる動きも活発です。平成十五年からは地元農家と子どもたちが一緒になり、学校給食用の野菜栽培に取り組んでいます。



Agricultural produce born out of a fertile soil Ueda is fortunate to receive plentiful sunlight. It also has one of the lowest rates of rainfall anywhere in Japan. A rich supply of agricultural produce emerges from out of this unique climate and fertile soil. Much interest is being shown in agriculture based on consideration to people and the environment, and Ueda has gained a reputation at the forefront of the movement toward local consumption of local produce.

富饶の土壌产出的作物 受惠于充足的日照量，在全国也有数的少雨地带之一的上田市。因它独特的气候和肥沃的土壤，成为众多农作物的产地。追求对人与环境和善的农业，还以自产自销的先进地而广为人知。



地元産の粉を使ったそばも、上田自慢の一品。その実力とそのこだわりを、お楽しみください。

を生かした個性ある農業生産が行われ、近年は真田地域のレタス、上田地域のトルコギキョウ、丸子地域のリンゴ、武石地域のイブニングスターなどの産地化・ブランド化も進められています。一方、上田市は地産地消の先進地としても知られ、市内約五〇カ所に設置されている直売



地元活性化組合と児童と一緒に、学校給食用の野菜栽培に取り組んでいます

Agrarprodukte aus dem fruchtbaren Boden: reichliche Sonnenstunden und wenige Niederschläge; dank diesem besonderen Klima und dem fruchtbaren Boden werden in Ueda vielfältige Agrarprodukte hergestellt. Das Interesse an der umweltfreundlichen Landwirtschaft ist sehr hoch. Vor allem ist die Stadt bekannt für ihre erfolgreiche Umsetzung dem Konzept "Verzehr vor Ort direkt in der Anbauregion".

1. 上田市のチカラを探る 豊かな土壌が生み出す作物 豊富な日照量に恵まれ、全国でも有数の寡雨地帯の上田市。その独特な気候と肥沃な土壌から、多くの農作物の産地となっています。また、人や環境にやさしい農業への関心も高く、地産地消の先進地としても知られています。

ナノテクノロジーに代表される最先端技術の研究・開発が進む



蚕都の面影を偲ばせる信州大学繊維学部講堂(国登録文化財)



上田市は県内屈指の工業集積地、多くのハイテク製品を出荷



今も蚕の卵を精製する上田蚕種株式会社の事務棟(国登録文化財)



製糸業が盛んに行われていた頃の工場風景と蚕都の繁栄を物語る笠原工業の副倉



Once a focus of silk production and now a key industrial center
Ueda once prospered as a center of silk production. The energy that was formerly directed toward the production of silk is now directed toward industrial production, and Ueda currently plays a leading role in the regional economy as one of the prefecture's major industrial centers.
从蚕都城到制造业之城
昔日上田作为蚕都城极尽繁荣。构筑了蚕都城的能量,在现代的工业也脉脉相传,作为县内屈指可数的工业集中地领导着地域经济。

2. 上田市のチカラを探る

蚕都からものづくりのまちへ

かつて上田は蚕都として繁栄を極めました。蚕都を築いたエネルギーは、現代の工業にも脈々と受け継がれ、県内屈指の工業集積地として地域経済をリードしています。



上田地域の産業を広く内外にPRする「上田地域総合産業展」には、企業約100社が出展。来場者や企業間で情報交換や交流が図られます

上田市はかつて「蚕都」と呼ばれ、江戸時代末期から昭和にかけて、現代の自動車産業にも匹敵する蚕糸業の興隆により、繁栄を極めました。上田地域は全国随一の蚕種の生産地と

して、丸子地域では製糸や絹糸紡績などの産業集積により、その製品を広く海外にも輸出して、近代日本の産業振興に大きく貢献してきました。このように蚕都を築いたエネ

ルギーは現代の機械金属工業にも脈々と受け継がれ、輸送関連機器や精密電気機器などを中心とする製造業の発展により、上田市は、平成十六年度の製造品出荷額が五九二五億円という県内屈指の工業集積地となっており、多くのハイテク製品などが世界市場に向けて輸出され、地域経済をリ

ドしています。また、高度な技術を有する企業が集積する上田地域や丸子地域には知識集約型・研究開発型企業の集積も見られ、平成十四年度から十八年度ま

で「知的クラスター創成事業」(文部科学省)を実施するなど、ナノテクノロジーに代表される最先端技術の研究・開発、次世代産業の創出にも大きな期待がかけられています。

丸子地域に初めて近代工業が興ってから、100年を記念して整備された工業百年記念公園



Verwandlung der Seidenstadt:
Ueda blühte einst als Seidenstadt. Der Zeitgeist damals ist heute noch bei modernen Unternehmen zu finden, die ein großes Industriegebiet in Ueda bilden, was in der Wirtschaft der gesamten Präfektur eine führende Rolle spielt.



上田の玄関口にふさわしい商業複合ビル「パレオ」が平成十五年に誕生



江戸時代からの造り酒屋や格子造りの街並みに風情が漂う北国街道・柳町の通り



Trading with a warm, smiling face
The commercial area of the city still retains many place names that evoke the era long ago when the city was a castle town. The area around Ueda Station has come into being as the new face of the city. It flourished in olden times as an important center for commercial exchange and it currently plays a role as one of the main commercial centers in the eastern part of the prefecture.
温暖地交換笑容の商業
至今保留着城下町之名的商业街。
作为新上田的象征而建造的上田站周边市区。
向来是商业昌盛,担负着县东部核心的商都机能。

3. 上田市のチカラを探る 温かく笑顔を 交わす商い

今なお名前に、城下町の名残をとどめる商店街。そして、新しい上田の顔として誕生した上田駅周辺市街地。古くから街道筋として栄え、県東部の中核的商都の機能を担っています。

古くは奈良時代から京都と東北地方を結ぶ「東山道」の拠点として、また江戸時代には北国街道の整備により物資の集散地、宿場町として栄えた上田市は、現在も長野新幹

線や上信越自動車道などの高速交通網が整備された交通の要所として、長野県東部の中核的な商都としての機能を担っています。
中心市街地には今なお、名



真田昌幸が上田城を築く際に、祖先の地・海野郷(現東御市本海野)から住人を移住させてつくったといわれる海野町

並べる柳町界隈では、歴史と文化を生かした商いが営まれています。
一方、市内の商業活動の中核を担う上田駅周辺市街地には平成十五年十二月に大規模な

前に城下町の名残をとどめる商店街が連なり、イベントを企画したり、インターネットで情報を発信するなど、人と人が心を交わす个性的で魅力ある専門店づくりがなされています。また、北国街道の面影を残し、格子造りや土蔵の白壁などを生かした風情のある店が軒を



北国街道の面影を残し、魅力あるまちづくりを目指す柳町商店街の皆さん



商業複合ビル「パレオ」がオープン。東信州の中核的な商都の玄関口にふさわしい新しい顔の誕生により、にぎわいを創出するモダンな駅前空間となりました。



明治から大正初期に建てられたという、木造洋館の店舗

Freundliches Lächeln der Kaufleute:
das Einkaufszentrum mit Namen des ursprünglichen Burgfleckens, das moderne Bahnhofsviertel als das neue Gesicht der Stadt. Einst blühte Ueda als die Stadt an der Landstraße, und ist heute das Geschäftszentrum im Osten der Präfektur.



「上田城千本桜まつり」でにぎわう上田城跡公園



上田のまちを巡るのに最適な自転車タクシーこと「輪タク」、長野大学の学生らがドライバーとガイドを兼ね案内



Conveying the attractions of our home town to the world
Ueda is home to many historical sites enveloped in the romance of history as well as to many beautiful sites of natural interest. The desire to convey the joy of living in Ueda to as many people as possible is an important aspect of local community activities, and it is these activities that are stimulating awareness of the new attractions offered by Ueda.
将故乡的魅力展现给更多的人，飘浮着历史词语的许多遗迹和美丽的自然所拥着的上田市。希望告诉更多人在这里生活的喜悦，地域建设活动散发着上田新的魅力。



別所温泉と上田電鉄別所線の魅力を再認識した「別所線利用促進シンポジウム」



歴史ある神社仏閣が点在し、信州の鎌倉と呼ばれる塩田平、真田氏活躍の舞台となった上田城跡など、数多くの歴史的な文化遺産や特色ある伝統行事、菅平高原や美ヶ原高原に代表

される雄大な自然、風情ある温泉など、上田市は地域の個性が際立つ豊富な観光資源に恵まれ、年間約四〇〇万人の観光客を迎えています。これらの観光資源の魅力をさらに高

め、また、これらの観光振興の一端を担うのが市民による積極的な地域づくり活動です。「稲倉の棚田」（日本の棚田百選）の保存をはじめ、「上田水辺プラザ川の駅」の美化活動、地域全体を花桃のピンクに染める余里の



リーディング産業としての観光を目指す上田の玄関口で大勢の観光客を迎える真田幸村像

めて有機的に連携させ、より多くの人たちに訪れてもらおうと、上田市ではリーディング産業としての観光を目指す積極的な取り組みを進め、農業体験やグリーンツーリズムなど、新たな広域体験観光にも力を入れています。

「花咲か爺さん活動」、年間を通じて農業・農村体験を提供する「ほっとステイ」など、個性ある地域づくりと人々の温かい魅力が発信しています。



農産物や特産品を販売する活気あふれる大収穫祭 上田女子短期大学の学生も販売に参加

Aktive und attraktive Heimat:
Ueda hat zahlreiche historische Denkmäler und die unverwechselbar schöne Natur. Weil die Bürger glücklich hier leben, teilen sie ihre Freude miteinander durch engagierte Teilnahme an kommunalen Aktivitäten mit, was der Stadt zusätzlich einen Scharm verleiht.

4. 上田市のチカラを探る

故郷の魅力をもっと多くの人へ

歴史ロマン漂う史跡の数々と美しい自然に抱かれた上田市。ここに暮らす喜びを多くの人に伝えたいと願う、地域づくり活動の輪が上田の新しい魅力を発信しています。



深い教養と専門知識を備えた人間性豊かな女性の教育を目的とする上田女子短期大学



論理的知識とものづくりの技術をあわせもった人材の育成を目指す長野県工科短期大学校



若者と地域の企業を結びつける取り組み、学生と企業経営者との座談会



A repository of new wisdom and power
Links between the industrial, academic and public sectors have become a major focus of attention in Ueda.
The city is home to four universities and junior colleges and has a student population of around 5,000.
The power of the young can be felt both in research and development activities and in their community-building work.
担负着新的智慧和力量
因致力于产学研官联合而引人注目的上田，是拥有4个大学约5000名学生的城市。
研究开发，城市建设都有年轻人们的力量在呼吸着。

上田市では新しい技術や産業創出により、地域産業を活性化する取り組みを積極的に進めています。平成十四年二月には信州大学繊維学部の構内に上田市産学官連携支援施設

(AREC)を設置。地域の企業と大学が共同で新製品・新技術開発などを進めています。バイオテクノロジー、新素材など幅広い分野でその成果を得ている取り組みは、日本新事業支

援機関協議会のJANBO新事業創出機関賞を受賞するなど全国の注目を集めており、また経済産業省のモデル事業指定を受けたことで、新産業創出拠点としての二層の成果が期待されています。

各校は地域に開かれた教育を実践して生涯学習環境づくりにも大きく貢献しており、また地域活動に積極的な学生も多く、まちづくりの大きな力になっています。



大学の研究成果を産業に生かすことを目的に、様々な事業を行う産学官連携支援施設AREC

援機関協議会のJANBO新事業創出機関賞を受賞するなど全国の注目を集めており、また経済産業省のモデル事業指定を受けたことで、新産業創出拠点としての二層の成果が期待されています。



DREAMCUPソーラーカーレース
鈴鹿2006エンジョイクラス
4時間耐久レースで優勝した
長野県工科短期大学校チーム

Junge Energie und Wissen:
zur bemerkenswerten Zusammenarbeit zwischen
Industrien/Behörden/Instituten in Ueda sind 4 Universitäten
und Hochschulen von ca. 5,000 Studenten involviert, deren
Wissen und Energie zur Forschung sowie städtischer
Entwicklung aktiv beitragen.

5. 上田市のチカラを探る

新たな知恵と パワーを担って

産学官連携の取り組みが注目を集める上田は、四つの大学・短大などに約五〇〇〇人が集う学生のまち。研究開発にもまちづくりにも若者たちのパワーが息づいています。

地域連携の形や視野を
どんどん広げて
いかなければ
と思います。



上田市長
母袋 創一
Soichi Motai

a round-table conference 知恵と連携を クロスさせながら 紡ぐ、 新たな上田市へ

学生のみならず、そして知恵のみならず、上田市。いま、地域と大学が力をあわせて、上田市の新しい活力をつくり出そうと動き始めています。もっともっと新たな上田市の可能性を探り、発見しようと市内4つの大学・短大から先生を招き、市長とともに語り合いました。

産学連携が
タブーと
言われていた
時期から、
産業界と協力。

信州大学理事
白井 汪芳

Hirofusa Shirai
昭和15年生まれ、上田市出身。信州大学で繊維化学科・同大学院で高分子化学を学び、助教授、教授、繊維学部長を経て、3年前から現在の職務に。同大学の研究・産学官・地域連携担当。



市内全体を
学生の
キャンパスと
とらえて
活動したい。

長野大学助教授
小長谷 悠紀

Yuki Konagaya
昭和41年生まれ。立教大学卒業。岩手放送(株)、フリーアナウンサーを経た後、立教大大学院観光学研究所に進学、立教大学観光学部助手勤務の後、平成17年4月より現職。博士(観光学)。



学生たちは
地域の方々に
育てて
もらっているんだなと
実感します。

上田女子短期大学専任講師
金山 美和子

Miwaoko Kanayama
昭和39年生まれ、上田市出身。新潟大学卒。私立の幼稚園に11年間勤務の後、上越教育大大学院で幼児教育を専攻。上越市女性相談員を経て、平成14年から現在の職務に。NPO法人ミーズネット理事。



長野県工科短期大学校長
大竹 勉

Tsutomu Otake
昭和16年生まれ、静岡県出身。信州大学工学部卒。東北大学大学院で電子工学を専攻。富山大に2年間勤務の後、諏訪市のセイコーエプソン(株)で時計用ICの開発に従事。同大学には創立から着任。



地元には
素晴らしい
技術をもった
企業が
多いのです。

臭布団などの商品が生み出されました。最近ではそこからアトピーの痒みを消す作用も見つけて、ようやく商品化が実現したところです。以前は全国九

大学に繊維関係の学部学科があったのですが、今では繊維学部は全国で唯一となり、信州大学が繊維科学技術(ファイバー工学)の中核研究拠点となっています。

現在は大学本部にある産学官連携推進本部長を務め、先生方の特許や知的財産、企業との共同研究を推進しています。また上田市と長野市、松本市と包括連携協定を結び、いろいろな地域の方との交流を図りながら、新たな連携事業を見出すべく取り組んでいます。

市長◆信州大学繊維学部と上田市は、早くからとても深いつながりがありますね。私は、信州大学は日本における産学連携のパイオニアだと思っています。小長谷◆平成十九年四月から長野大学に新しく開設する環

境ツーリズム学部発足にともない、一足早く着任いたしました小長谷と申します。

全国には二〇ほど観光系学部がありますが、長野大学環境ツーリズム学部は観光と環境問題をあわせて学ぶ、全国で初めての学部です。長野大学は、従来その最大の特徴として地域づくりに貢献するための人づくりに取り組んできていて、過去の学部や学科も常にそういうスタンスで時代を読みながら設置してきました。それから大学内だけでなく市街地全体を学生のキャンパスと考えて使わせていただき、上田市や長野県全体の観光や環境、産業に貢献できる人づくりができればと考えています。

また、大学内には平成十五年四月に地域の方と若者がともに学び、実践する環境をつくらうという非営利団体「学生地域くらし創り考房こみっと」が結成され活動しています。市長◆長野県内は観光資源も



平成19年1月24日、旧宣教師館で座談会が行われた



4つの大学・短大と上田市の連携に関する協定書調印式

市長◆上田市は、一六万人都市にして市内に大学と短大が四校もある、全国でも類を見ない学術研究都市です。早くから産学連携が行われていたり、また各大学でもさまざまな活動を行っていることに、上田市の新たな力を予感するとともに、行政としても大学の地域連携に深い関心を寄せているところです。最初に各大学を代表する先生方から、大学での地域活

多い所です。環境問題は地域の身近で重要なテーマ。素晴らしいですね。

大学が地域の子育て支援、学生は保育を体験学習。

金山◆上田女子短期大学幼児教育学科で保育学・幼児教育学を担当しています。金山です。上田女子短期大学では、地域子育て支援活動の一つとして、キャンパスを開放して未就園児を中心に親子に遊びに来てもらう子育て広場を、平成十五年から実施しています。少子化もあり、同じ子育て中のお母さんや子どもたちの出会いの場、情報交換の場として利用してもらい、大学側も学生が大学にいながらにして保護者の方との接し方や保育活動の実践を体験的に学べるとあって、やってよかったと思う取り組みです。それと総合文化学科では、二

動などをご紹介いただきたいと思っています。

白井◆信州大学の白井と申します。大学・大学院時代は繊維化学科専攻で、当時まだ新しい分野だった高分子化学を専攻しました。信州大学では、まだ産学連携という言葉がタブーと言われていた時代から産業界と協力して、高分子化学で解毒酵素のモデル研究を進め、消臭繊維の開発に携わり、消

年生がインターンシップで地域のいろいろな企業に体験に行っています。これも地域の方々に育ててもらっているなど実感している取り組みです。

市長◆学校の施設を使って、地域のお母さんたちのニーズにマッチングした活動ですね。これからの時代、地域連携の形や視野をどんどん広げていかなければ、と思いますね。

大竹◆長野県工科短期大学校の大竹と申します。工科短大は技術者養成ということ、ロボットやソーラーカーの製作に取り組み、特にソーラーカーは鈴鹿二〇〇六エンジョイクラス四時間耐久レースで優勝しました。また今度、電気自動車の実験が行われますが、今回は上田市にも間に入っていたら、大変お世話になりました。

それから学生の就職の関係で、地元のいろいろな企業とお付き合いをしています。素晴らしい技術をもった企業がたくさんありますね。私自身も興味がある

若者の活力は地域の財産でもある。また学生にとっても、地域との関わりは人間形成のうえでも大切なこと。

上田市市長 創一 母袋 縁あって 上田市に学びに 来たのだから、 何かを得て 巣立って行って ほしい。



あつて、就職活動と言つては学生を連れて話を聞きに行くのですが、これを学生のうちからできたらいなと考えています。知識がどんどん広がるし、インターンシップほど構えず、もともと気軽に社会の現場を見ることが出来る。何より学生たちが企業現場の人と対話したり交流が図れるのがいい。今コミュニケーション自体が少ないですからね。

市長◆これからの取り組みも含め、貴重なお話ありがとうございます。冒頭でも申しましたが、上田市内には四大学・短大があつて、学生数は約四〇〇〇人。そこに専修・各種学校が八校で二二〇〇人ほどですから、全部で五〇〇〇人以上



産学官連携のモデルとして注目を集める上田

トワークの方々とお話する機会があつて、上田市は不登校になつてしまう子の率がちょっと高くて切ないというお話を伺いました。皆さん心を痛めていることなのですね。そうなるための対処療法も重要ですが、やはり人づくりの原点は幼児教育と思えますし、そのために地域と行政と大学が連携していったらと思うのです。たとえば、小さな子どもから思春期の子どもたちまでが、わいわい出入りできるような、子どもセンター

の学生がいるわけです。若者の活力は経済効果も含め地域の財産でもあります。また縁あって上田市に学びに来たのですから、何かを得

て築立って行って欲しいという思いもあります。先ほどのお話でも、学生にとつて地域との関わりは、人間形成のうえでとても大事なことで感じてきました。そこでさらに一歩進めて、産学官連携を図るには、どんな取り組みがあるか、お考えがあればお願いします。

「千曲川」から発信する学・官・民による地域活動。

小長谷◆今春三月、長野大学の教員などが中心となり「千曲川流域学会」を立ち上げます。学会といつても専門性の高い学術研究のみならず、川の流域に住む方たちにも来ていただき、一緒に水質や岸辺の保全を考えたり、川の恵みとか昔の川辺での遊びの発掘などを通して、川の文化を再発見し活用していこうという取り組みです。学

一的な場所が大学のなかにあつて、地域の大学生が自分の専門性をもつてお兄さんお姉さんとして、小中学生や小さな子どもたちと関わりあえる広場的な場所を設けて運営できたらいいなと。

四大学・短大連携による次世代教育や地域活動。

白井◆信州大学では十年前前から、大学院の学生が中高生に科学を教える「ときめきサイエンス」を続けていますが、今では、県外からも来るのですが、四大学でいろいろな角度からそういうことをやるのもいいですね。学生間の交流もできるし。大竹◆うちの大学でも夏休み

に創造館でやっています。学生も喜んでやりますし、そういった所へなら、不登校の子も出てくるかも……。市長◆それぞれの大学でテーマを決めて、行政の方は広報でP

信州大学理事 白井 汪芳 4大学が いろいろな角度で 教室を開催して みるのもいい。



かと思つていたのです。これは学と官と住民が一緒で、大いに期待したいですね。たとえば、千曲川流域を地域住民なりが一日二斉クリンというのも、一つのテーマになりますね。小長谷◆そうですね。この上田市の美しい自然環境はあたりまえのものではなく、むしろ得がたく貴重なものと考えていくべきでしょう。さらに、地球全体を視野に入れた意識をもつて上田市民が環境問題に取り

長野大学助教授 小長谷 悠紀 一人ひとりが グローバルな意識をもって 環境問題に取り組めたら 素晴らしい。



り組めたら素晴らしいですね。白井◆信州大学でも、循環ネットなど環境問題をテーマにいろいろなことをや

上田女子短期大学専任講師 金山 美和子 大学のなかで 子どもセンター みたいな広場が 運営できたら。



Rするなど、位置づけを決めてやるといいですね。大竹◆四大学が連携して一緒にやれば、広報するにしてもやり易いですよ。たとえば、バスに乗って四カ所をツアーみたいな巡回できれば、人も大勢集まりやすいし。東北の三大祭りみたいな、三つ同時にポスターでPRすると迫力がでると同じで、アピールがありますよ。私、前から学生にも言っているのですが、大学祭を市のイベントと同時にやればいいと。そうしたら人も大勢集まるよと。

市長◆上田市の真田まつりと

合わせてやるのか。大学へ動いていけるよう、うまくアクセスをつくってやるとか。学生もお祭りに参加するとい

長野県工科短期大学校長 大竹 勉 4大学が連携して、一緒に イベントができれば アピールできる。



ています。環境問題は大学との地域連携に一番いいフィールドですね。金山◆私の専門は子育て支援で、短大と行政が協同で子育てサポーター養成講座を実施しています。文部科学省の家庭教育支援関係の調査研究委員をしたことから、サポーターの活動の場所を提供しての養成講座が好事例だとして、調査団が視察に来たのです。その時、外に芝生や子ども遊び場があり、なかに託児室のある公民館施設を見て、子育て中の人も気軽に地域活動に参加できる、新しい形の公民館ですね、うらやましいですねと言われまして、上田市は全国に注目されることをしていると誇らしく思いました。大竹◆少子化で子どもがどんどん減っていますから、さまざまな子育て支援の形があると、お母さんたちも安心ですよ。そこに大学がいろいろな形で一緒に組めたらいいですね。金山◆そうですね。その一方で今深刻な問題になっているいじめや不登校の問題ですが、社会教育委員や子育て支援ネットです。環境問題は大学との地域連携に一番いいフィールドですね。金山◆私の専門は子育て支援で、短大と行政が協同で子育てサポーター養成講座を実施しています。文部科学省の家庭教育支援関係の調査研究委員をしたことから、サポーターの活動の場所を提供しての養成講座が好事例だとして、調査団が視察に来たのです。その時、外に芝生や子ども遊び場があり、なかに託児室のある公民館施設を見て、子育て中の人も気軽に地域活動に参加できる、新しい形の公民館ですね、うらやましいですねと言われまして、上田市は全国に注目されることをしていると誇らしく思いました。大竹◆少子化で子どもがどんどん減っていますから、さまざまな子育て支援の形があると、お母さんたちも安心ですよ。そこに大学がいろいろな形で一緒に組めたらいいですね。金山◆そうですね。その一方で今深刻な問題になっているいじめや不登校の問題ですが、社会教育委員や子育て支援ネット

新たな文化の拠点、交流の拠点が必要。それには、大学・市民・企業の力と連携してつくり上げていくことが大切。

真田三代、 知謀と武勇

戦国時代を駆け抜けた真田三代をはじめとする一族の物語

徳川の大军を上田城に迎え撃ち、わずかな軍勢で2度にわたり撃退した真田一族。

真田幸隆から昌幸、そして信之、幸村兄弟の三代は、群雄割拠の戦国乱世を疾風のごとく駆け抜け、その光芒は今も後世の人々に熱く語り継がれています。

天下に轟いた 真田の武勇

真田氏の出自には諸説あり、明らかではありませんが、信州の小豪族海野氏に何らかの関わりをもつ者が真田に住み、これを姓としたことに始まるといわれています。東信濃の一土豪に過ぎなかった真田氏が世に知られるようになったのは、中興の祖とされる幸隆が武田氏の家臣になってからのことでした。

敗れ、幸隆は一時、上州に落ち延びますが、その後、武田信玄に請われて信州先方衆となり、信濃攻略で度々戦功を立てて武田軍団の中心的な武将としてその名を知られるようになります。これにより念願の真田の地も奪還。北上州にまで勢力を伸ばしますが、信玄病没の翌、天正二（一五七四）年、その後を追うように亡くなります。

真田家の家督を継いだのは長男の信綱でしたが、信綱は弟の昌輝とともに、天正三（一五七五）年の

長篠の合戦で戦死したため、三男

の昌幸が家督を継ぐことになり

ます。抜群の知略の持ち主であり

った昌幸は、やがて沼田城を手中

におさめ、武田氏滅亡後の天正

十（一五八二）年には上田城の築

城に取り掛かります。そして、天

正十三（一五八五）年、上田城の築



第1次上田合戦の直後、豊臣秀吉が真田昌幸に宛てた書状



第1次上田合戦の直後に沼田周辺の家臣に出した恩田等宛真田信之書状

天文十（一五四二）年、海野一族は武田、村上、諏訪氏の連合軍に

城から間もなくのこと、沼田城の帰属を巡って昌幸と対立した徳川

The Sanada clan on two occasions stood up to and repelled the numerically far superior forces of the Tokugawa clan during assaults on Ueda Castle. Three generations of the Sanada family, beginning with Sanada Yukitaka and moving on in the second generation to Sanada Masayuki and in the third generation to the brothers Sanada Nobuyuki and Yukimura, held out and survived throughout the period of conflict between powerful regional lords toward the end of the Muromachi Period, and tales of the rise and fall of the Sanada clan are still today narrated among the local people.

以弱小的军势在上田城迎击并连续2度击退德川大军的真田一族。从真田幸隆，到昌幸，到信之，幸村兄弟的三代，在群雄割据的战乱世如疾风一样驰骋，其光芒流传至今。

Die legendäre Erfolgsgeschichte der Familie Sanade fasziniert uns heute noch. Die drei Generationen (Yukitaka als Vater, Masayuki als Sohn und Nobuyuki/Yukimura als Enkel) in der Zeit der Wirren um 15.-16. Jahrhundert, schützten tapfer zweimal die Ueda-Burg trotz ihrem kleinen Heer vor Angriffen vom mächtigen Tokugawa-Bataillon.



天正11(1583)年に、上田城を築城した真田昌幸



大坂冬の陣・入城の際に、率いる軍の鎧を赤で統一していたといわれる真田幸村

家康は七〇〇〇の徳川軍を送り上田城に迫ります。これに対しわずか二〇〇〇であったといわれる真田軍は地の利を生かした奇襲戦法を繰り出して徳川軍に大敗を負わせ、これを撃退します。兵力でははるかに上回る徳川軍を撃破したことにより、真田氏の知略と武勇は一躍天下に知られることになります。

六連銭の旗印のもと

真田氏の武勇が再び天下に轟いたのは慶長五(一六〇〇)年、舞台は天下分け目の関ヶ原の合戦でした。この時、昌幸は次男信繁(幸村)とともに西軍につき、嫡男信幸(信之)は東軍に加わります。小山評定により、徳川秀忠率いる徳川本隊三万八〇〇〇は、中山道を一路関ヶ原を目指す途中、上田城



昌幸の家臣河野清右衛門が、戦功により昌幸から拝領したと伝えられる真田昌幸着用具足

に籠城する昌幸らを攻めますが、真田軍は二六〇〇の小勢ながら再び奇襲戦法を繰り出して、徳川軍を十日間に渡って足止めさせ、秀忠の徳川本隊を九月十五日の関ヶ原合戦に遅参させたことはあまりにも有名です。結果的に西軍は敗れ、昌幸・幸村父子は紀州九度山に流されますが、この際、

戦国乱世を生き抜き、名を後世に伝えた真田三代。歴史の表舞台に登場するのは、わずか70年余に過ぎない。



真田昌幸・信之・幸村の父子3人が、下野国犬伏で行った密談の様子。真田父子犬伏密談図(佐藤雪洞画)

二人の命を救ったのは、東軍にあって、戦功を捨て身を賭して父と弟の助命を嘆願した信幸(後に信之と改名)でした。

昌幸は豊臣家の再興を願いつつも九度山で生涯を閉じます。しかし、幸村には再び真田の勇名を世に知らしめる時が訪れます。慶長十九(一六一四)年、豊臣方に請われて九度山を脱出した幸村率いる真田軍は、大坂冬の陣で再び六連銭の旗印を翻らせ徳川軍を苦しめます。そして、夏の陣では家康の本陣深く攻め込み、幸村は壮絶な最期をとげます。



上田城は平成18年、日本100名城に選ばれ、上田城跡公園は同年、日本の歴史公園100選に選ばれた

劣勢の豊臣方につき、少ない兵で大軍と互角に戦う幸村の勇猛果敢ぶりは「日本一の兵」と讃えられ、

真田一族の意気を今に

年には松代に移封され、その領地を守り、真田の名を後世に残しています。

真田氏激闘の舞台となった上田城は、関ヶ原合戦後に徳川家に破却され、現在残る遺構の大部分は、信之移封後に上田城主となった仙石氏により復興されたものですが、本丸の真田神社境内には、城外への抜け穴となっていたという真田井戸などが残されており、時を超えて現代の人々に戦国時代の面影を偲ばせています。

上田城は全国的にも知名度が

大坂夏の陣での奮戦ぶりを描いた真田幸村勇戦之図



高く、歴史上も重要性が高いことから、平成十八年には「日本の二〇

〇名城」に選定され、春は桜、秋はけやき並木の紅葉が美しい上田城跡公園は、市民に愛される上田市のシンボルとして「日本の歴史公園一〇〇選」に選ばれています。毎年四月には千本桜が舞い散るなか、鉄砲隊による号砲を合図に一大時代絵巻の「上田真田まつり」が開催され、甲冑姿の武者行列が上田市内を練り歩い、真田一族の意気を今に伝えています。

また、大坂冬の陣の直前、豊臣方の要請を受けた幸村が九度山



真田幸村を縁に、大阪市との交流を深めようと、上田城と大阪城の「友好城郭」提携を調印

を脱出し大阪城に入城したのが十月十日といわれていることから、平成十八年十月十日、関淳一大阪市長と母袋創一上田市長により、大阪城天守閣において大阪城と上田城の友好城郭提携の調印式が行われ、真田氏を縁とした二つの城の新たな交流がスタートを切っています。



仙石氏が城主だった時代(元禄年間)の上田城下町絵図

戦国に生きてきた武将たちの壮大な夢。今も私たちの胸に深く刻まれ、数々の伝説に彩られながら語り継がれる。

Beautiful Ueda engraved in the heart
Visiting ancient hot springs provides the visitor with the opportunity to experience a somehow nostalgic environment and heartwarming hospitality. Every carefully preserved traditional flavor enshrines the plenty of nature and the depth of history, giving rise to a serene feeling of excitement and the joy of discovery. This is an area that was once favored by many of Japan's leading film directors. Many stories were set in this location and became vividly engraved in the hearts of people as they watched the cinema screen or when they came to visit Ueda.

刻在心里の、美丽的上田
历史悠长的温泉，有些怀旧的城市，还有温暖的接待。守护传达着故乡的味道，自然的丰采和历史的深厚交融在那一点一滴，静静的感动和发现的喜悦也会累积起来。这里是名监督们喜爱的城市。每天都产生着新的故事，深深地鲜明地刻在荧幕和访问者的心中。

Eindrucksvolle Szenen überall:
das alte Stadtviertel zur heißen Quelle, der warmherzige Empfang, kulinarische Genüsse nach Tradition, Natur und Geschichte sind überall in der Stadt zu finden. Ueda war der Lieblingsort von namhaften Regisseuren. Hier sind immer wieder neue Episoden geboren, die im Film oder direkt im Herzen der Besucher ewig in Erinnerung bleiben.

2

映画のワンシーンへ

1

上田湯めぐり、味めぐり

特集

心に刻む、麗しの上田

いにしえの出湯を訪ねて出会う、どこか懐かしい街並みと温かいもてなし。守り伝えた故郷の味の一つひとつにも、自然の豊かさと歴史の深さが溶け合って、静かな感動と発見の喜びが積み重なっていきます。ここは名監督たちが愛したまち。いくつもの物語が日々に新しく生まれ、スクリーンや訪れる人の心に、深く鮮やかに刻まれていきます。



収穫時期になると、採れたての新そばを味わう「そばまつり」が各地で開催されます



古来より人々の心と体を癒してきた名湯として、たんさんの利用客に親しまれています



(写真・右) 戦国時代、真田一族が英気を養い、傷を癒したといわれる別所温泉「石湯」
(写真・左) お湯を3回かけて美肌を願う別所温泉の「湯かけ地藏」



1. 心に刻む、麗しの上田 上田湯めぐり、 味めぐり

湯煙たなびく出湯の里は、心ふれあう癒しの故郷。情緒あふれる温泉街をのんびり散策すれば、体もほかほか、心もほかほか。信州上田ならではのそばと地酒の組み合わせ、素朴な郷土料理の数々にも温かいもてなしの心が伝わります。

上田市は出湯の里。開湯から千二百年ともいわれる真田氏ゆかりの別所温泉をはじめ、全国でも数少ない環境省指定国民保養地に選定されている、

鹿教湯・大塩・霊泉寺温泉からなる丸子温泉郷など、全国的にも知られる名湯・古湯が幾つもあり、癒しや健康づくりを求めて訪れる多くの湯浴客に親しまれています。



別名「七久里の湯」とも呼ばれ、信州でも古い温泉の一つ別所温泉

泉質、効能もさることながら、四季に美しい周囲の景色を眺めつつ風情ある温泉街をのんびり散策するのも楽しみの一つ。ちよつと足をのぼして、別所温泉から厄除けと招福で全国から参拝客を集める北向観音や日本唯一の八角三重塔(国宝)がたたずむ安楽寺の参詣、鹿教湯温泉なら内村川に架かる五台橋や文殊堂などの名所巡り

も旅の思い出を心に刻みます。このほか、真田温泉「ふれあいさなだ館」、武石温泉「うつくしの湯」、室賀温泉「ささらの湯」など日帰り温泉施設も各地に点在し、スポーツや行楽帰りに気軽に楽しめます。

湯めぐりの後は味めぐり。そば処として知られる信州上田には五〇数軒にのぼるそば専門店が腕を競っており、そば好きで知られる地元の人々に鍛えられた自慢の味が楽しめます。また、塩田平の古利(こき)巡りで味わう「くるみおはぎ」や郷土食を代表する「おやき」も上田ならではの故郷の味です。

おいしい水と米、伝統の技かならではの故郷の味です。

信州上田には多くのそば店があり、そば処として知られています



ら生まれた地酒や味噌、漬け物に加え、初夏になると千曲川などの川べりに建つ「つけば」

と呼ばれる小屋で、ハヤ(ウグイ)や鮎などの野趣に富んだ川魚料理に舌鼓を打つのも一興です。

Visiting the hot springs and restaurants of Ueda Hot spring resorts, with the steam from the waters rising up into the sky, offer the visitor relaxation and communication. Strolling leisurely through the picturesque streets of the hot spring district, one feels warmth of body and spirit. A sense of real hospitality is conveyed by the combination of soba noodles and locally brewed liquor unique to the Ueda district of Shinshu as well as by the wonderful natural flavors of the local cuisine.

在上田巡遊温泉, 巡遊料理 热气腾腾的温泉, 是消除疲劳, 抚平伤痕的疗养圣地。如果在情趣溢出的温泉街悠闲自在地散步, 身心皆暖。只有信州上田才有的荞麦和地酒, 朴素的本地特色菜, 都在传递着温暖。

Heiße Quelle und kulinarische Genüsse: die heiße Quelle ist die Oase für die Seele. Der Spaziergang durch das Viertel wärmt Körper und Seele auf. Der Sake und der Buchweizenschnaps, die Spezialität von Ueda in Shinshu, dürfen nicht fehlen, wenn man die schlicht aber liebevoll zubereitete Küche voll genießen will.



信州の郷土食として愛されているおやき。地域や家庭により味わいが変わります



©2006「犬神家の一族」製作委員会



©2006「犬神家の一族」製作委員会

「犬神家の一族」
原作:横溝正史「犬神家の一族」/監督:市川崑
柳町、上田高校正門、上田畜種株式会社、信濃国分寺参道などで撮影された



©2006「犬神家の一族」製作委員会



©2006「嫌われ松子の一生」製作委員会



©2006「嫌われ松子の一生」製作委員会

「嫌われ松子の一生」
原作:山田宗樹「嫌われ松子の一生」/監督・脚本:中島哲也
塩田中学校をロケ地として撮影された



©2006「嫌われ松子の一生」製作委員会



©2006「嫌われ松子の一生」製作委員会

心に刻む、麗しの上田
2.
映画のワンシーンへ
信州上田は“屋根のないスタジオ”。大正時代から多くの日本映画のロケ地として名シーンを飾ってきました。旧街道や千曲川河畔、詩情あふれる温泉街など、心に残るあのワンシーンを訪ね歩いてみてはいかがでしょうか。

To a movie scene
Shinshu Ueda might be described as a roofless film studio. Many celebrated scenes in Japanese movies from the Taisho era onwards were filmed on location here in Ueda. Visiting the old streets of the town, the banks of the River Chikuma, and the picturesque hot spring district, it's quite conceivable that you might stumble across the exact spot where a favorite movie scene was filmed.
电影的景色
信州上田は“没有屋顶的艺术家工作室”。从大正时代开始，上田就是很多日本电影的外景拍摄地，留下了众多有名场面。旧大道和千曲川河畔，诗情溢出的温泉街等等，寻找那留在记忆中的景色试着走走怎样？
die Szene im Film:
Ueda in Shinshu ist sogenannt “das Freilichtstudio für Dreharbeit”. Seit der Taisho- Ära des Anfang 20. Jahrhunderts wurden hier zahlreiche Filme gedreht. Die alte Landstraße, das Chikumagawa-Ufer, das poetische Stadtviertel zur heißen Quelle usw. erinnern die Spaziergänger an die bekannten Szenen im Film.

上田が映画やTVドラマのロケ地選ばれている理由としては、四季の変化がさわやか、美しい自然に囲まれた古くからの建造物や街並みが保存されていること、晴天率が高く撮影に適していること、菅平高原や有数の温泉リゾートを抱え宿泊施設にも恵まれていること、首都圏からのアクセスが容易なことなどが挙げられます。さらに市民の映画への関心が高く、ロケ撮影に対するサポート態勢が整っていることも重要な点です。上田市では平成十一年に全国初のロケ誘致資料「ロケ地ガイド」を発行。平成十三年に「信州上田フィルムコミッション」を設立し、撮影適地の紹介やエキストラの手配、ロケハン



村上正典監督「7月24日通りのクリスマス」の撮影風景

青い山脈、男はつらいよ寅次郎純情詩集、犬神家の一族、楢山節考、リング0バースデー、LOVE SONG、学校の怪談、卓球温泉など、上田地域は八十年ほど前から、さまざまな映画のロケ地となり、詩情あふれる別所や鹿教湯などの古湯をはじめ、旧街道の宿場や千曲川河畔、菅平高原、古寺古社、郊外の木造建築などがスクリーンに登場してきました。これまでに七〇本近くの映画が撮影され、日本の映画史に残る多くの名作も誕生しています。近年では「たそがれ清兵衛」(山田洋次監督)のロケ地となり、真田広之扮する清兵衛と大杉漣扮する豊太郎との決闘シーンが、上田城跡の西側を流れる矢出沢川の高橋周辺で撮影されています。



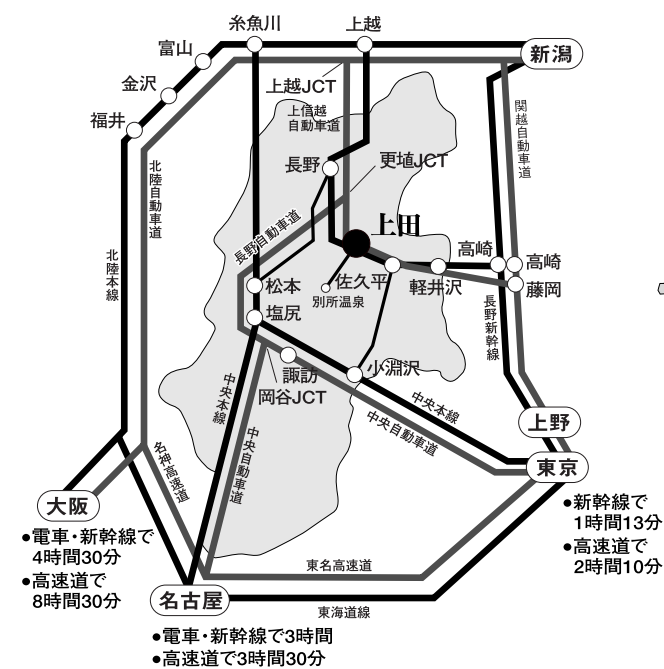
「7月24日通りのクリスマス」の撮影では、地元を中心に200人がエキストラとして参加

時のナビゲーター、撮影に関する各種許可申請の代行などさまざまなサポートを行っています。す。現在では年間一〇〇件余りの映画やTVドラマなどの撮影が行われています。

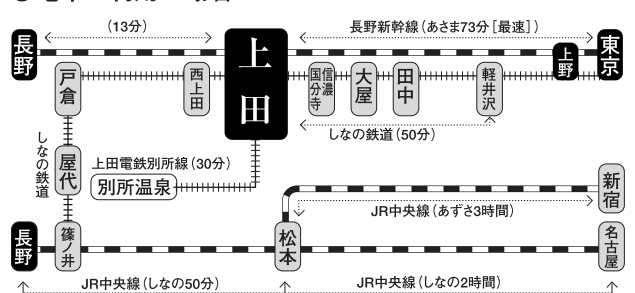


信州大学繊維学部講堂で撮影された「7月24日通りのクリスマス」

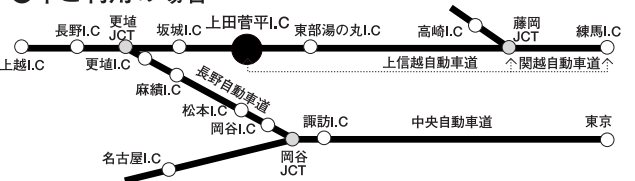
【位置と交通】



●電車ご利用の場合



●車ご利用の場合



●各種交通のご案内

- 列車で
東京 長野新幹線(1時間13分) 上田
名古屋 JR中央線→長野→長野新幹線(3時間) 上田
名古屋 JR中央線→篠ノ井→しなの鉄道(3時間20分) 上田
- お車で
線 馬 関越自動車道→藤岡JCT→上信越自動車道(2時間10分) 上田菅平I.C
名古屋 中央自動車道→岡谷JCT→長野自動車道→更埴JCT→上信越自動車道(3時間30分) 上田菅平I.C
富山 北陸自動車道→上越JCT→上信越自動車道(2時間50分) 上田菅平I.C
- 高速バスで
池袋駅 千曲バス→白田→(3時間40分) 上田
大阪 千曲バス→京都→(8時間30分) 上田(夜行バス)
名古屋 名古屋JRバス→更埴→(4時間40分) 上田

Ueda city Illustration map

上田 鳥瞰図譜

上田市は、日本のほぼ中央、長野県の東部に位置し、中央を千曲川が流れ、北に菅平高原、南に美ヶ原高原を有しています。長野新幹線や上信越自動車道などの高速交通網の整備により、東京へは最短73分(新幹線利用)でアクセスできるなど、首都圏や近畿・中京圏とも短時間で結ばれています。





上田市勢要覧

ともに紡ぐ明日、 ともに築く上田

発行日●平成19年3月 発行●長野県上田市
〒386-8601 長野県上田市大手一丁目11番16号
tel.0268-22-4100 (代表) fax.0268-25-4100 (代表)

編集●上田市総務部秘書課

制作●株式会社ぎょうせい

印刷●田口印刷株式会社



古紙配合率100%再生紙を
使用しています



環境に優しい大豆インクを
使用しています